

蒲生干潟の地形調査⑥

■堆積が進み閉じてしまった潟湖と堆積が進む河口付近

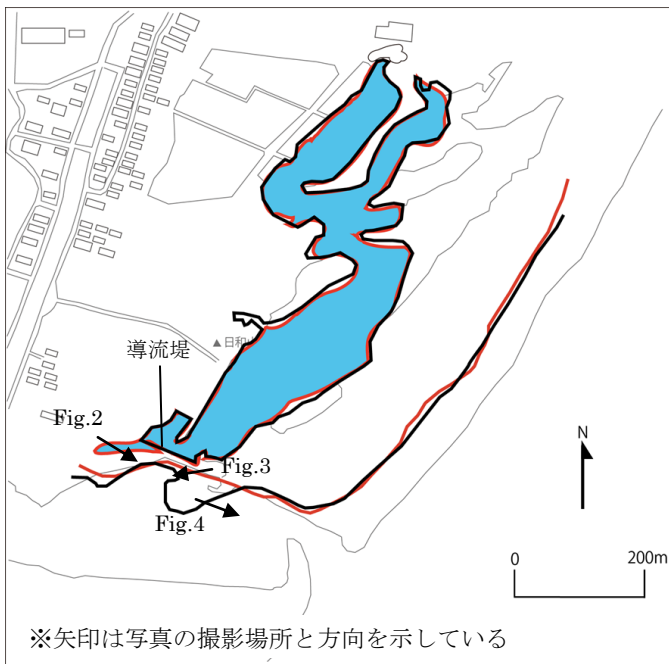


Fig.1 10月5日・11月5日の汀線の簡易測量結果



Fig.2 導流堤の南側に100m近く堆積した砂



Fig.3 導流堤の南側に1m以上の高さに堆積した砂



Fig.4 対岸の堆積が進み大きく蛇行した河口付近

調査日 2015年11月5日(木) 10:50~12:30

この日の満潮時刻は11:24であり満潮時間帯に調査を行った。11月の汀線を黒、10月の汀線を赤でしめした(Fig.1)。河口付近では堆積が進み、川からの潟湖への水の流入が全くできなくなってしまった。特に導流堤があった付近は堆積の度合いが大きく南側に100m近く広がり(Fig.2)、堆積した砂の高さは水面から1m以上(Fig.3)であった。対岸の地形も変化していた。10月の報告では大きく浸食されていた

対岸付近は大きく砂が堆積しており(Fig.4)、河口付近は大きく蛇行していた。

水の流入が無いにも関わらず、潟湖の形に多少の変化がみられた。10月と比べると潟湖の面積的にはほとんど変化がないが潟湖の形が部分的に変化していた。また潟湖周辺では満ち引きによって鳥の糞が流されないために、ところどころで鳥の糞が多く残されたままであった。海岸線は10月の調査と大きな変化が見られなかった。しかし、これまでの調査で海岸線で見る事があまりなかったイワガキの貝殻が大量に打ち上げられていた。

(中田 晋)